

1 農業・農村が目指すべき姿

➤ 本計画では、食料の安定供給や農業・農村の多面的機能を維持していくため、

① 人口減少下で持続的に発展する農業

② 多様な人が住み続けられる農村

を目指す姿とし、それを下支えする土地改良事業を推進します。



食料・農業・農村基本法の基本理念として、農業・農村には「食料の安定供給」と「多面的機能の発揮」という2つの役割が期待されています。

農業は、食料の安定供給だけでなく、農業が行われることにより発揮される多面的機能を維持する役割を担っています。

農村は、農業生産活動が行われる現場であると同時に、農業者を含む多様な人が日常生活を営む生活基盤でもあります。

本計画では、食料の安定供給や多面的機能を維持していくため、

①人口減少下で持続的に発展する農業

②多様な人が住み続けられる農村

を目指す姿とし、それを下支えする土地改良事業を推進していきます。

農業・農村をめぐる情勢の変化

新型コロナウイルス感染症の流行により、世界が大きな変化に直面する中、土地改良事業においても新たな時代を見据え、コロナの時代の「新たな日常」の実現、Society5.0の実現、SDGsへの貢献等の観点が重要となります。

農業・農村が目指すべき姿を実現するには、農業・農村を取り巻く情勢の変化を考慮し、土地改良事業を推進していくことが必要です。

新型コロナウイルス感染症の拡大

Society5.0の実現に向けた取組

農業・農村の抱える課題と農村の再評価

大規模自然災害の頻発化・激甚化

TPP、日EU・EPA、日米貿易協定、RCEP協定等
新たな国際環境

持続可能な開発目標（SDGs）に対する関心の高まり